



きれいな環境がもたらす効果

年間約3000万人が訪れ、リピート率が90%を超える東京ディズニーリゾート。実は、清掃をとっても重視しているそうです。多くの清掃スタッフが24時間体制でパーク内を巡回しています。また、パーク内のわずかな傷を放置せず、ペンキの塗り直しや破損箇所を見つけ次第すぐに対応しています。パーク内が常にきれいな状態だと、「ゴミをポイ捨てしてはいけない」「分別に協力しないとイケない」という空気をつくり上げることにつながり、割り込みなどのマナー違反も少なくなったそうです。



ゴミの管理や清掃は、防犯の観点から非常に大切だと言われています。街の治安向上に関する有名な話に、元ニューヨーク市長ジュリアーニの取組みがあります。ジュリアーニが市長に就任した当時、ニューヨークでは重大犯罪の発生件数が多く、治安が問題視されていました。そんな街を変えるべく市長が行なったのは「街の建物や地下鉄の駅の割れたままになっている窓を徹底的に修理すること」「街の落書きを徹底的に取り締まること」でした。この取組みを行った結果、重大犯罪を75%も削減することができたそうです。軽微な犯罪やマナー違反を徹底的に取り締まることで、「この街は人の目が行き届いている」という意識を植え付け、犯罪が許されない雰囲気のある街を形成していくことができます。これは、アメリカの犯罪学者ジェームズ・ウィルソンとジョージ・ケリングが提唱した理論で、「割れ窓理論」と言います。普段過ごす環境をきれいにすることは、人々の心をきれいにする効果もあるのですね。

本校では時折、地域住民の方から「お菓子などのごみのポイ捨てが気になる」と連絡をいただくことがあります。小学生が捨てたということも大いに考えられ、学校でも折にふれて指導しています。

そうした中、本校では、2月9日に「地域ふれあい清掃」を行いました。地域の方々といっしょに交わりながら、学校周辺や公園、通学路の清掃に取り組みました。落ち葉やごみを見つけると、声をかけ合い、協力する姿がたくさん見られました。袋いっぱい集まった落ち葉を見て、子どもたちは達成感いっぱいの表情を浮かべていました。最後には地域の方から温かい言葉も



いただき、地域とのつながりを実感する時間となりました。

そして、子どもたちが驚いたのは、「思っていたよりごみが少ない」ということでした。公園や緑道、学校周辺には目立ったごみがあまりなく、日頃から地域の皆様が環境を守ってくださっていることに気付いたのです。「いつもきれいなのは、だれかがしてくれているからやね」「地域の人たちってすごいね」という声も聞かれました。（※裏面に続く）

※「校長室だより」カラー版は、本校ホームページ「配布文書」にアップしています。

(※表面より)

今回の活動は、単にごみを拾うだけでなく、地域の方々の思いや日々の積み重ねに目を向ける貴重な機会となりました。自分たちが利用している公園は自分たちで大切にすること、自分の出したごみは自分で持ち帰ることを当たり前に行うことができること、そして落ちているごみに気付いたら進んで拾えること——そうした姿がこれからさらに広がってほしいと願っています。

環境をきれいにすることは、自分のためだけでなく、周りの人の心地よさにもつながります。学校でも地域でも、みんなが気持ちよく過ごせるよう、相手を思いやり、心配りのできるやさしい子どもたちを育てていきたいと思えます。

のだっこ Diary

★子どもたちの学校生活の様子は、本校ホームページでも紹介しています。随時更新していますので、ぜひご覧ください。

【地域ふれあい清掃】 2月9日（月）



※「校長室だより」カラー版は、本校ホームページ「配布文書」にアップしています。